

## 本校の「総合的な探究の時間」について

神奈川県立横浜清陵高等学校

校長 田中 顯 治

### 教育課程開発校の指定を受けて

本校は平成 30 年 10 月 1 日、神奈川県教育委員会より教育課程研究開発校の指定校のなかで、「総合的な探究の時間」の研究指定を受けました。「総合的な探究の時間」は学習指導要領の改訂に係るもので、平成 31 年 4 月より先行実施されているものです。

本教育委員会では、5つの地域(横浜北東・川崎地域、横浜南西地域、横須賀三浦・湘南地域、中・県西地域、県央・相模原地域)から各 2 校、計 10 校が指定されました。この指定校のなかで、全般的な研究と、SDG s をテーマにした展開に係る研究、2つに分かれて研究することになりました。

本校は横浜南西地域の指定校として全般的な研究の指定にあたり、指定期間は平成 31 年 4 月からの 3 年間となっています。指定校になって最初に苦労したことは、前年の平成 30 年 10 月に指定を受け、次年度 4 月より実施するために、限られた期日内に 3 年間指導計画書を、3 月上旬までに提出しなければいけなかったことです。そのため、直ちにワーキンググループを編成しました。メンバーは教頭をリーダーに、学習支援グループ総括教諭、キャリアグループから 1 名、他は新 1 学年教員 4 名の計 7 名でワーキンググループを発足させ、第 1 回の定例会議は平成 30 年 10 月 31 日(水)に開催され、「総合的な探究の時間」の計画を立てることになりました。

ワーキンググループは指導計画書の提出まで 12 回に及ぶ会議を開き、具体的な指導内容の研究・検討や、指導計画書案の作成等を行ってきました。ワーキングの流れを示しておきます。

#### 第 1 回 H30.10.31 2 校時

- これまでの「総合的な学習の時間」の取り組み
- 「総合的な探究の時間」の目標、取り扱い内容、学習活動、指導と評価など

#### 第 2 回 H30.11.7 2 校時

- 情報収集と情報提供
- 本校の目標、育てる生徒像との関係

#### 第 3 回 H30.11.21 2 校時

- 育てる生徒像について
- 業者来校について

#### 第 4 回 H30.11.28 2 校時

- ワーキングを毎週水曜日 2 校時に固定
- 105 時間の組み立てについて

○「総合的な探究の時間」の費用⇒外部からの支援を検討

**第5回 H30.12.5 2校時**

○教育関連企業等による説明会、検討について

**第6回 H30.12.12 2校時**

○教育関連企業等による説明会、検討について

○冬休み中の説明会、検討について

**第7回 H30.12.19 2校時**

○教育関連企業等決定、それに伴う手続きについて

○次回ワーキングで105時間の組み立ての検討について

**第8回 H30.12.26 2校時**

○105時間の組み立て(学習活動、外部講師の有無など)

**第9回 H31.1.9 2校時**

○県よりの配付物について(教育課程編成の指針、指導計画)

○教育関連企業等来校の件について

**第10回 H31.1.16 2校時**

○神奈川総合高校への出張について

○校長ヒアについて

○教育関連企業等との打ち合わせについて

**第11回 H31.2.6 2校時**

○出張の報告

○企画会議への報告、職員会議への報告連絡事項として提出することについて

○今後の取り組みについての準備

**第12回 H31.2.27 2校時**

○経過報告

○年間指導計画の作成について

○今後の取り組みについて

高校入試を迎える時期だけに、短い時間のなかで具体的な指導内容の決定や、指導計画書を提出することができたのは、本当にワーキンググループの教員の努力の結晶によるものだと思います。

**探求から探究へ**

昨年度までは「総合的な学習の時間」として設けられていたものが、本年度から「総合的な探究の時間」がスタートしました。各校によって様々な実践が行われているのだと思います。

○「総合的な学習の時間」を継承・発展させたもの

○地域と連携して地域課題を行っているもの

- 課題研究を継承・発展させたもの
- 探究などの学校設定科目を設け探究学習を継続しているもの
- SSH や SPP などの指定を受け、探究学習を行っているもの
- 今回、新たに「総合的な探究の時間」を設けたもの

など、学校の生徒、地域などの実情に合わせて実践が行われていると思います。4月から「総合的な探究の時間」となったのは、「総合的な学習の時間」で課題があったからにほかなりません。文部科学省より「総合的な学習の時間」の取り組みとして不適切とされたものには

- 修学旅行
- 生徒会活動
- 運動会の応援合戦
- 文化祭の準備
- 合唱コンクールのための練習
- 教科の補完学習
- 読書、漢字、計算、英単語などの自習時間
- 卒業生を送るための準備

以上のようなものがあげられています。また、学校種間の取り組みが重複していることも、問題とされました。本校の「総合的な探究の時間」では、上記の内容は取り組みとして外しており、さらに学校種間の重複を避ける意味でも、新たに指導内容、指導計画を作成しました。

本校は「総合的な探究の時間」の先駆的な指定を受けたときから、「探究」とは何かということを考えてきました。前身の横浜清陵総合高校の開校(平成16年4月)以来、特色科目として3年に「探求」という科目を配していました。教員の一部には、既存の「探求」の内容を改め、発展させて行えばよいという声もありました。しかしながら「探究」と「探求」は字が違い、意味も異なります。

一般的に、「探究」は「見極める、物事を解明する、問い合わせる」等の意味であり、「探求」は「物事を手にするために探し求める、追跡」等の意味です。英語でも「探究」は inquiry であり、「探求」は quest です。学問や真理を探る場合には「探究」、手に入れるまで探し続ける場合には「探求」となります。

具体的には、いままでの「探求」では、生徒本人の生き方から「公認会計士について」という課題が出されれば認められます。しかしながら、この課題の立て方では調べ学習や進路学習の範囲を超えることは難しいと考えられます。例えば、今回の「総合的な探究の時間」で「マッコウクジラは、なぜ3000メートル潜ることができるのか」という課題の立て方は、解が簡単ではなく、教科横断的にならざるをえなく、課題の立て方としては成立すると考えます。

本校では、「探求」をベースとして「総合的な探究の時間」の指導内容や指導計画を立てることには無理が生ずるので、新たに教育内容や指導計画を立てることになりました。

平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申において「習得・活用・探究」の 3 段階の学習が示されました。この「習得・活用・探究」は、新学習指導要領や授業改善のキーワードになっています。この 3 段階の学習を通して基礎・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を身につけていくこととなります。習得や活用という過程では、生徒は与えられた問いを解くのに対し、探究は自ら問いを立て、その解を探し求めることが必要になります。

文部科学省は、「総合的な探究の時間」における学習では「問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく、これを探究と呼ぶ。」と記され、さらに「要するに探究とは、物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の営みのことです。」とも記されています。これらから「総合的な探究の時間」では、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動と捉えます。

本校では前述したように、平成 16 年度より『探求』という科目を配置して実践してきました。生徒に課題を考えさせ、情報収集、情報の整理・分析、結論のまとめとプレゼンテーションやレポートを自ら主体的に行うことで、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力などを養う学習を展開していました。普通科生が入学することになり、昨年度は、教育関連企業の支援を借りて「総合的な学習の時間」に「探求型」の学習を展開しました。この学習プログラムは、企業から与えられたミッションに対してグループ(チーム)を作り、そのチームで考えたミッションに対する提案を、プレゼンテーションするという流れで展開しました。

しかしながら、企業が大学生にインターンシップで実施しているようなミッションであり、プログラムであったので、このプログラムでは生徒に探究する姿勢が育ちにくいと判断しました。そこで改めて『探究』のための、新しいプログラムを作成することになったのです。

ワーキンググループでは、「総合的な探究の時間」の年間指導計画を 3 月上旬までに県教育委員会へ提出しなくてはならず、短期間という時間的制約や、働き方改革が叫ばれるなか、新しいプログラムを教員だけで作成し、実際に展開していくことは非常に難しいと判断しました。そこで本年度は「NPO 法人未来をつかむスタディーズ」に協力をいただき、プログラム作成、運営などの支援を受け、「総合的な探究の時間」をスタートすることになりました。

## スタートして

本校では「総合的な探究の時間」が 1 年次生からスタートしました。本校の探究的な学習は、課題設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現という流れではなく、1 年次の前期は課題設定前の段階であり、最初にガイダンスや職業人講話、自己分析など、課題設定の前準備を行います。そして後期に入って探究活動の手法を経て自分自身の課題を設定することになります。いまの段階では大きな課題はないように見えますが、実はあまりに

も現状がカオス的なものかもしれません。先行事例が多くあるわけではなく、本校自身が全般的研究の指定校であり、パイロット的な役割を果たさなくてはいけない任務を負っています。そういう点では試行錯誤しながら「総合的な探究の時間」を展開しているところです。年度が始まり、まだ4月～7月までの4か月しか実施していません。今後の指導実践及び指導計画から課題になると予測されることを記してみました。

1. 「総合的な探究の時間」の目標が生徒の課題解決のための資質・能力の育成に合致しているか⇒カリキュラムマネジメントの軸になり、学校の教育目標や育てたい生徒像に対応したものになっているのか。
2. 調べ学習になっていないか⇒自ら疑問に持ったことを課題として立て、その事に関する情報を収集し、整理・分析、まとめてプレゼンや論文にとどまっていないか。また、教科・横断的な見方・考え方になっているのか。
3. 問いをどのように立たせるか⇒唯一解がないものや、解が直ぐに明らかにならない問いを立てさせることができるのか。学習の3段階のラインを意識し、問いが教科学習の習得や活用の延長線上や、それらの見直しになっているのか。
4. 思考の技法をどのように身に付けさせるか⇒仮説立てる、比較する、分類する、順序付ける、関連付ける、教科の見方・考え方をする、多面的に見る・考える、理由付ける、予想する、具体化・分解化する、抽象化・一般化するなどの技法を身に付けさせる。
5. 教員はどのように指導すべきなのか⇒教員は指導するのではなく、助言支援することになるのではないか。
6. 評価はどのようにするのか⇒整理・分析、まとめ・表現のところでどのように評価するのか。総合型選抜での活用や調査書記載はどうするのか。大学入試にはどのようにつながるのか。
7. 振り返りをさせないと一連の学習活動にならないのではないか⇒まとめ・表現で論文やプレゼンテーションを課すが、その後、オープンエンド化し、新たな探究を促すことが必要です。
8. 情報収集の活動先をどうすればよいか⇒現在、1年次の前期なので情報収集の過程に至っていないが、次年度にはアンケート調査、インタビュー、実験・実習、フィールドワークなどの活動場所をどのように設ければよいか。
9. 業者サイドの問題⇒1年次と2年次が同じ業者に協力依頼することは、業者の人的な問題や、時間割制約上の問題が生じます。

「総合的な探究の時間」の校内組織が整備され、順調に展開していくには、校長をはじめとした管理職の理解、支援が必要だと考えています。これから実践していくなかで新たな課題が出てくると思いますが、それらの課題を克服しながら「総合的な探究の時間」を進めていきたいと思っています。

(参考資料)

神奈川県立横浜清陵高等学校全日制課程普通科  
( 学校番号 11 )

### 「総合的な探究の時間」指導計画

#### 1 全体計画

実施年度	平成31年度	
教育課程表上の名称	探究活動 (仮称)	
学校教育目標	「自主自律」・「自他敬愛」・「自立精進」	
総合的な探究の時間の目標 (学校としての目標)	① 探究活動を通して、予測不能な時代における自己の生き方・在り方を考え、適切に将来の進路を選択・決定する力を養う。 ② 探究活動を通して、自己と一体的な課題を自ら発見・解決していく資質・能力を養い、他者との関わりを尊重し、社会に貢献できる人材を育成する。	
育成を目指す 資質・能力	知識及び技能	生徒各自が選択設定した探究課題に関わる学習活動の過程を通して、身近な事象が人間生活と密接に関わり、様々な要因で変化する可能性を秘めていることや時間軸・空間軸を超えて「自分軸」に繋がるものであることを理解するとともに、課題の解決に必要な知識・技能を身につける。
	思考力、判断力、表現力等	生徒各自が選択設定した探究課題と自分自身との関わりの中から、多種多様な価値観を受容し、「問」を見出し、課題の解決に向けて仮説を立て、収集した情報を多面的に分析・整理する力を身につけるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身につける。
	学びに向かう力、人間性等	生徒各自が選択設定した探究課題に関する学習活動に主体的・協働的に取り組み、予測不能な時代を生きていくために視野を拡げ、自分自身の生き方・在り方を考える力を身につける。
学習活動の在り方	<ul style="list-style-type: none"><li>・学びの連続性を持ち、学習過程のサイクル化を図れるような探究課題を設定</li><li>・総合学科時代の「探求」の成果を継承し、発展した学習活動を展開</li><li>・専門家による講評の場を設定し、「生徒の学びに向かう力」に活用</li><li>・2年間(3単位)で三つの課題に取り組むスタイルで実施</li></ul>	
指導方法及び指導体制	<ul style="list-style-type: none"><li>・多様な世界の課題に注目させ、自ら課題を発見し、解決していく資質や能力を養うための学習活動の展開</li><li>・ワークショップ等を通じた、生徒各自の興味や関心に応じた指導および支援の工夫と、「個」を尊重した対応</li><li>・他の存在を認識し、万事を「自分事」として捉えることで、自己の生き方や在り方を思考し、進路決定や社会貢献する人材を育成</li><li>・「探究」ワーキンググループからの引き継ぎを受けたキャリアガイダンスグループを中心とした、各年次の年間指導計画の作成及び改善</li><li>・担任を主軸とした直接的指導と、外部業者を介在させた間接的支援の、二系統による指導および支援体制の構築</li><li>・専門的な助言や相談を受けることで生徒の探究活動の学びが深化することを意図した外部業者を通じた企業や教育・研究機関等との連携</li></ul>	

探究課題及び学習内容	○第1学年（年次）：通年「課題探究Ⅰ（ファーストステージ）」 自身が選択設定した探究課題について探究する。初歩段階は教職員や外部講師からの「問」や「助言（ヒドグーション）」を参考にしながら、仮説や検証等の計画を立案し、情報収集・分析を経て、成果発表に至る。	
	○第2学年（年次）前期：「課題探究Ⅱ（セカンドステージ）」 1年次の学習を踏まえ、自身が選択設定した探究課題について深く探究する。第二段階では、教職員や外部講師からの「問」のみにとどめ、生徒の自力によって、課題解決の結論を導き出し、その成果を発表する。	
	○第2学年（年次）後期：「課題探究Ⅲ」（サードステージ）」 前期の学習を踏まえ、自身が選択設定した探究課題について更に深く探究する。最終段階では、教職員や外部講師の指導・支援に頼らず、自ら「問」を立て、探究学習のプロセスを経て「結論」を導き出し、成果発表するとともに、自身の未来予想図を描く。	
	○第3学年（年次）：なし	
評価の観点の趣旨	評価の観点	評価の観点の趣旨
	知識・技能	探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身につけ、自身が設定した課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。
	思考・判断・表現	設定した課題と自身との関わりの中から「問」を見出し、解決に向けての情報収集や整理分析をして、総括・表現することが出来る。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に探究に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現させようとする態度と社会貢献する意識が身につけている。

## 2 第1学年（年次）の年間指導計画

第1学年（年次）の探究課題		8領域（国際理解、情報社会、科学技術、伝統文化、自然環境・資源、健康・医療、教育・福祉、防災・復興）の中から各自が選択設定した「探究課題Ⅰ」			
履修単位数（時間数）		1単位（35時間）			
教育課程実施に係る位置付け		<input checked="" type="checkbox"/> 時間割に位置付けて実施 <input type="checkbox"/> 時間割に位置付けるとともにある期間に集中して実施 （集中して実施する期間： ）			
評価の観点の趣旨		評価の観点		評価の観点の趣旨	
		a	知識・技能	探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身につけ、自身が設定した課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	
		b	思考・判断・表現	設定した課題と自身との関わりの中から「問」を見出し、解決に向けての情報収集や整理分析をして、総括・表現することが出来る。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に探究に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現させようとする態度と社会貢献する意識が身につけている。	
学期	時間	指導事項 （探究の学習過程）	主な学習活動	評価規準	単元
	2	②ガイダンス ・学習の動機づけ ・ライフプラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ「探究学習」が必要なのかを考える</li> <li>2年間の取組、活動の意義、約束事等について理解する</li> <li>自身のX年後のライフプランを立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 探究学習の意義や価値、取組内容や約束事を理解している</li> <li>b 予測不能な時代をいかに生きるかを考え、自身の進路について表現することが出来る</li> <li>c 自身のライフプランや現代社会が抱える諸問題に主体的に取り組んでいる</li> </ul>	ガイダンス
	4	②職業人講話Ⅰ ・先生の生き方 （・講師の体験談）	<ul style="list-style-type: none"> <li>先人他者の高校生から現在に至るまでの人生ライブを聴き、視野を広げ、自身の生き方や価値観の参考にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 自身の生き方や価値観の参考となる情報を収集するために必要な知識・技能を身につけている</li> <li>b 情報を整理分析して、自身が得たものを表現することが出来る</li> <li>c 情報の収集に主体的・協働的に取り組んでいる</li> </ul>	職業人講話Ⅰ
	4	③自己分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップを通して、自身を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ワークショップから得られたものを整理分析するために必要な知識・技能を身につけている</li> <li>b ワークショップの体験を的確に判断し、適切に表現できる</li> <li>c ワークショップを通して、主体的に自己分析に取り組んでいる</li> </ul>	自己分析



	4	②職業人講話Ⅱ (・先生の生き方) ・講師の体験談	・先人他者の高校生から現在に至るまでの人生ライブを聴き、視野を広げ、自身の生き方や価値観の参考にする	a 自身の生き方や価値観の参考となる情報を収集するために必要な知識・技能を身につけている b 情報を整理分析して、自身が得たものを表現することが出来る c 情報の収集に主体的・協働的に取り組んでいる	職業人講話Ⅱ
後期	4	①課題設定	・ワークショップを通して、自身が執り行なう「課題」を選択し、決定する	a 探究活動の課題の発見と解決に必要な知識・技能を身につけている b 自身が選択決定した課題から「問」を見出し、探究活動の計画を立案することが出来る c 課題の選択・決定、探究活動の計画立案に主体的に取り組んでいる	課題設定
	2	② } 探究活動の手法 ③ } ④ }	・探究活動を行なうにあたり、その方法を具体事例から学習し、 <b>課題研究の見通しを行なう</b>	a 探究活動を行なうために必要な知識・技能を身につけている b 課題に相応な手法があることを理解し、妥当な選択・判断が出来る c 探究活動の手法学習に主体的に取り組んでいる	手法学習
	9	② } 探究活動Ⅰ ③ } ④ }	・各自で情報収集、整理分析、発表準備に取り組む ・書籍涉猟やインターネット検索、アンケート調査やインタビュー取材、仮説検証のための実験等のフィールドワークを展開する ・取組を分析し、考察(結論)を整理する ・中間報告(含:相互評価)をする ・小論文やレポート、プレゼンテーションスライドを作成する	a 探究活動に必要な情報収集・整理分析・発表準備の知識・技能を身につけている b フィールドワークから得られたデータ結果を適切に整理分析し、判断・考察・表現することが出来る c 情報収集、整理分析、発表準備に主体的・協働的に取り組んでいる	探究活動
	4	④成果発表	・プレゼンテーション大会を実施する	a 探究活動の成果のまとめ・表現に必要な知識・技能を身につけている b 探究活動の成果を的確かつ適切に表現し、効果的に演出することが出来る c 探究活動の成果発表に主体的に取り組んでいる	成果発表
	2	①リフレクション	・自身の「探究活動」の振り返り、次年度に繋がる「課題設定」の検討	a 探究活動を通して、探究学習に必要な知識・技能が身につけているとともに、自身が設定した課題に関わる概念を形成している b 自身が設定した課題が、時間軸・空間軸を超えて「自分軸」に繋がるものであると考察することが出来る	リフレクション

				c 全探究活動を通して、他者の存在を認知し、主体的・協働的に諸問題を「自分事」として捉えるとともに、次年度に繋がる学習に振り返りを行なっている	
--	--	--	--	---	--

※ 探究の学習の過程（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表

現）

【単元計画】（単元ごとに記入） ※可能な範囲で記入してください。

単元名	ガイダンス		
単元の目標	「探究」とは「自分自身の課題として取り組むこと」と意識づけること		
単元の評価規準	評価の観点		単元の評価規準
	a	知識・技能	探究学習の意義や価値、取組内容や約束事を理解している
	b	思考・判断・表現	予測不能な時代をいかに生きるかを考え、自身の進路について表現することが出来る
	c	主体的に学習に取り組む態度	自身のライフプランや現代社会が抱える諸問題に主体的に取り組んでいる
小単元名 (時間数)	学習活動		評価規準及び評価方法
ガイダンス (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究学習」の必要性について考える</li> <li>・2年間（3単位：1年次1時間、2年次2時間）の取組内容の概要や学習活動の意義、授業に関する約束事などについて理解する</li> <li>・自身のX年後のライフプランを立てる</li> </ul>		a b c ○ワークシート ○「振り返り録」
(__時間)			